

1. 単元名

〔TOKYO 2020 からのメッセージ〕※自作単元

2. 単元観・児童観・指導観

(1) 単元観

本単元は、内容項目「A:主として自分自身に関すること」「B:主として人との関わりに関すること」「C:主として集団や社会との関わりに関すること」「D:主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を単元の中にバランスよく配置することで、最終的に様々な視点から〔TOKYO2020〕について考えることができるようにしている。また、主たる内容項目の他に、関連する内容項目や対立する内容項目を配置することで、児童の多様な考えを制約することなく、議論の中でねらいに迫っていくことができるようにしている。様々な価値を支える多様な価値観に触れることで多面的思考を表出させ、自分にとって価値ある選択・判断を繰り返していくことで多角的思考を生み出し、そこから自己の生き方について考えることができる単元構成となっている。

(2) 児童観

本学級の児童はこれまで、毎時間テーマに沿った道徳的価値について自分のこれまでの経験や思いをもとに考えを広げたり深めたりしながら自分なりの納得解を見つける学習活動を行ってきた。また、自分の考えを伝えるために立場を明らかにして発言したり、様々な友達の考えをよく聞いて自分にとってよりよい選択をしようとしたりする姿が多くみられるようになってきている。しかし、低学年段階の子供たちは生活経験の差や違いから、価値そのものを問われたときに自分なりの考えを既にもっている児童、多様な考えを受け入れることができる児童がいる反面、これまでの生活経験の乏しさから価値について考えをもつことが難しい児童、何が自分にとってのよりよい答えなのかを決めることが難しい児童も一定数存在する。今回の単元テーマである〔TOKYO2020〕についても、実際にテレビやニュースを通して視聴していた児童と、あまり興味をもつことのなかった児童がいることが想定される。毎時間のテーマについて考える際には、学級の児童全員が同じ土台に立って考え、議論することができるように教材の内容や提示の方法、発問を工夫するなどして学習を進めていくことが大切になる。

(3) 指導観

以上を踏まえ、本単元では毎時間ねらいとする道徳的価値に対する「一面的な見方」から、対話的な学びを通して「多面的・多角的思考」へと「見方・考え方」を高め、それをもとに自己の生き方についての考えを深めていくことを前提とした上で、「全5時間を貫くテーマ」「全5時間を総合的に捉える場」を単元の6時間目に設定することで多角的思考を促し、自己の生き方（メッセージから何を受け取ったか）を児童それぞれが導き出すことができるようにする。

3. 単元の目標

〔TOKYO2020〕に関する様々なエピソード（資料）をもとに、そこに内包される道徳的価値（ねらいとする道徳的価値）について考え、議論することを通して、今後の自己の生き方につなげていくことができること（メッセージから受け取ったこと）について深く考えることができる。

4. 単元のデザイン (全6時間)

時間	学習活動・学習内容	ICT活用	関連する内容項目
1	<p><u>コロナ禍でのオリンピック</u></p> <p>●オリンピック開催はよかった？わるかった？それはなぜ？</p> <p><u>L/F 発揮の姿</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場を明らかにしたうえでその理由を伝える姿 ・他者の考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりする姿 		<p>【A(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任】</p> <p>【C(10) 規則の尊重】</p> <p>【D(17) 生命の尊さ】</p>
2	<p><u>選手の「ありがとう」に込められた思い</u></p> <p>●メダルで恩返しってどういうこと？</p> <p><u>L/F 発揮の姿</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手の「ありがとう」は誰に対してのものなのか（大舞台に立つまでの背景）を様々に考え合う姿 		<p>【B(7) 感謝】</p> <p>【C(13) 家族愛, 家庭生活の充実】</p> <p>【B(9)友情, 信頼】</p>
3	<p><u>険しいオリンピックまでの道のり</u></p> <p>●やっぱり天才は簡単に金メダル獲れちゃうんだね！</p> <p>△どうして途中でくじけなかったのだろう？</p> <p><u>L/F 発揮の姿</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験と照らし合わせながら目標を実現させるために大切なことを考え合い, 自分なりの答えを見付ける姿 		<p>【A(5) 希望と勇気, 努力と強い意志】</p> <p>【A(4)個性の伸長】</p>
4	<p><u>SNS に書き込まれた誹謗中傷</u> <u>情報モラル</u></p> <p>●顔の分からない人から言われる悪口の数々 ～「死ぬ」「くたばれ」「消えろ」～</p> <p>映像教材を通して [タミーのらくがき]</p> <p><u>L/F 発揮の姿</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・【正直, 誠実】の価値との矛盾と葛藤を通して自分の思いを相手に伝えるよりよい方法について様々に考える姿 	<p style="text-align: center;"><i>NHK for School</i></p> 	<p>【C(11) 公正, 公平, 社会正義】</p> <p>【A(1)善悪の判断, 自律, 自由と責任】</p> <p>※【A(2)正直, 誠実】</p>
5 本 時	<p><u>世界から見た日本, 日本から見た世界</u></p> <p>●外国の人と仲良くなるために大切なことってなんだろう？</p> <p><u>L/F 発揮の姿</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国のことを知ろうとしていない現状を自覚し, 様々な立場から自分たちの課題を自覚する姿 ・新しく得た情報をもとに自分なりの思いをもつ姿 	 	<p>【C(16) 国際理解, 国際親善】</p> <p>【C(15)伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度】</p>
6	<p><u>〔TOKYO2020〕から受け取ったメッセージ</u></p> <p>●〔TOKYO2020〕の学習を通して自分が1番大切にしたいと思った価値は何ですか？</p> <p><u>自己理解を深め, 自己の生き方について考える姿</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの5時間を振り返って自己を見つめ, よりよく生きていくために自分にとって必要な価値を考える姿 		<p>【D よりよく生きる喜び】</p> <p>※低学年段階での取り扱いについて</p> <p>【D(19)感動, 畏敬の念】</p>

5. 本時の目標（5/6）

他国の人と仲良くなるために大切なことを考える活動を通して、他国を知ることのよさに気づき、他国の文化に親しんだり他国の人々との交流を前向きに捉えようとしたりする心情を育む

6. 本時の展開

「目指す子供の姿」を実現するための手立て

教師の働きかけ（●発問、▲補助発問、■指示・説明）○子供の学習活動	◆留意点 ※評価
<p>1. 他者と仲良くなるために大切だと思うことを考える</p> <p>●「誰かと仲良くなるためには何が大切ですか？」 経験からの想起</p> <p>●「相手が外国の人だったらどうですか？」</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;"> <p>① 外国の人となかよくなりた [はい ・ いいえ]</p> </div> <div style="padding-left: 10px;"> <p>② 外国の人となかよくなれる [はい ・ いいえ]</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>課題 どうしたら様々な国の人となかよくなれるのかな？</p> </div>	<p style="text-align: center;"></p> <p>◆児童の実態から、仲良くなりた い気持ちはあるが、仲良くなれるか どうか不安な気持ちを抱く児童が多い ことが予想される。導入では、その 実態をロイロノートのアンケート機能 を用いて表面化させ、どうしたら仲良 くなるかというテーマを全体で共有す る。 (自己理解①)</p>
<p>2. 他国のことをあまりよく知らない自分たちの現状を自覚する</p> <p>●「先生は外国の人と仲良くなることは無理だと思うんですね」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の人が突然ハグをしようとしてきて怖かったし驚いた ・そもそも言葉が分からなくて会話にならない 等々 <p>⇒外国の文化を知らない・知ろうとしていない事実が浮かび上がる</p>	<p style="text-align: center;"></p> <p>◆実際に外国で文化の壁を経験した ゲストティーチャーの話聞き、他国の ことを知らない状況で仲良くなろう とすると、文化の違いという壁があ ることを共有する。 (一面的な見方)</p>
<p>3. オリンピック選手たちの写真から分かることを交流する</p> <p>●「それでも実際には外国の人と仲良くしている人がいます」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックでライバルだった二人が試合後とても仲良し ・オリンピックの閉会式で人種を超えて笑顔で交流する姿 等々 <p>●「この人たちはどうしてこんなに仲良くなれたのでしょうか？」 多面</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>「同じ目標に向かって努力をした仲間だから」「頑張っ てほしいという気持ちが伝わったから」「戦ったことで相手の 凄さがお互いに分かったから」 ⇒共通点：「お互いに気持ち（関心）を向け合う」ことが 確認される</p> </div>	<p>◆オリンピックでの人種を超えた交流 があったことを女子ソフトボールの 教材を通して知り、壁を超えたもの が何であるのかを考える。</p> <p>◆オリンピック選手達の姿から、 国を超えて生まれたお互いへの思い を確認することで、どちらか一方 だけの思いで仲良くなることは できないことや、自分たちからの 矢印を向けること（外国の文化 に関心をもち、知ろうとする こと）が仲良くなるための第 一步であることに気付く。 (多面的・多角的思考)</p>
<p>4. 外国の人と仲良くなるために大切なことを考える</p> <p>●「様々な国の人と仲良くなるために大切なことは何かな？」 多角</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>文化面「言葉を知ること」…言葉を知ればもっと 伝え合える 「その国のすごいことを知ること」…共通 の話題になる 感情面「優しい気持ちをもつ」「笑顔で いる」「勇気をもつ」 →言葉が分からなくても伝わる 気持ちがある ⇒興味や関心をもち、知ろうと することが仲良くなるための第 一步</p> </div>	<p style="text-align: center;"></p> <p>◆一人ひとりが自分なりの納得解 を導き出した段階で、ゲスト ティーチャーからのメッセージ を受け取る。 (自己理解②)</p>
<p>5. 本時の活動を振り返り、道徳ノートに記述する</p> <p>●「今日の学習を通して感じたことや思ったことを書きましょ う」</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>「今までは外国の人は少しこわいと思っ ていたけど自分が知らないことが たくさんあることに気づいた」「これ から、もっとダレン先生に話し掛 けてみようと思った」「自分の知 らない外国のことについて調べ てみたい」「自分の興味のある 国についてもっとよく知りた いと思った」等の思い</p> </div>	<p>※発言・記述</p>

■本時で目指す子供の姿

本時における「自己理解」を高めている子供の姿

外国の人と仲良くなりたい気持ちと仲良くなれないかもしれない気持ちの葛藤を経て、仲良くなるためには自分からも外国に目を向け、異なる文化をに興味や関心を持ち、外国のことを知ろうとすることが大切であることに気付く姿。

■本時のポイント

本時における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

導入：自分の思いや願いとそれを実現することの難しさを自覚する。

→ロイロノートのアナログ機能を使用し、児童の立場を明らかにする

展開：オリンピックを通じて外国の人と実際に仲良くしている日本人選手の姿から、何があればこのような姿になれるのかを多面的に考える。

→自分の経験を想起しながら友達と仲よくなる時に大切なことは何かを考え、外国の人にもその「大切なこと」が当てはまるかどうかを議論し広げ、深めていく。

終末：多様な考えに触れ、多角的に考える（自分の納得解を選び取る）

→「自分+〇〇=外国の人と仲良くなれる」実際に外国の人が日本のことを知ってくれている（友好的に思ってくれている）事実を知り、自分からもできることがないかを考える。

外国の人と仲良くなるなんて無理なことですよ



何を喋っているか分からないからちょっと怖いよね…

難しいなあ…



でも、実際に仲良くしている人もいますよ

本当に無理なのかな？

実際に仲良くしている人達は、どうしてこのような関係になれたのかな？



一緒に努力をしてきたスポーツの仲間だから

直前まで戦っていた敵同士でしょ？

お互いの頑張りを分かっているから

同じ競技を通じて関わりがあるから

相手の凄さを知っているから

お互いに関心があるから



まず、自分が相手（の国）のことを知りたいと思う気持ちが必要なんじゃないかな？



相手（の国）のことを知ったら、お互いにもっと親しみやすくなると思うよ

様々な国の人と仲良くなるために大切なことは何か？（自分+〇〇=仲良し）



お互いに知ろうとし合う気持ちが必要だと思うから…



私は勇気！だって…

ぼくは知ること！自分でも外国のことを調べてみたいな



■道徳科におけるリーダーシップ・フォロワーシップの育成について

道徳科における Ls/Fs 育成のポイントは「自己理解」

<道徳科で目指す子供の姿>

「社会情動的スキル・自己理解・倫理性」の育成，特に自己理解に焦点を当て，研究を進めていく。
自己理解を本研究では2つに大別する。

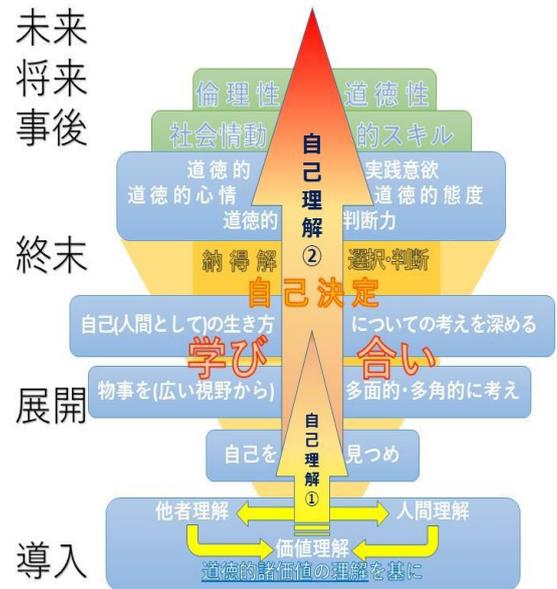
- ①自己との関わりで道徳的価値の理解を深める姿
- ②メタ認知能力（批判的思考力）を高める姿

①は主に授業前半から見られる姿であり，道徳的な問題や道徳的課題を自分事として捉え，他者の考えに触れる中で発揮されていく。また，授業を通して維持・発展していくものである。

②は主に授業後半から授業後に見られる姿である。授業においては「自分の考えは誰（何）に影響を受けたのか（自分は誰に影響を与えたのか）」「何をもちて正しいと判断したのか」「本当にこれでよいのか」など，複眼的に自分の思考を整理することで高まっていく。

①を発揮・維持・発展させながら，②の姿へと接続していくためのキーになるのが「自己決定」（自分にとって価値ある選択・判断をしたり，道徳的な問題や道徳的課題に対する納得解を導き出したりすること）であり，選択肢を増やしたり，自他が納得する解を導き出したりするためには，多様な感じ方・考え方に触れる学び合いが必要不可欠となる。

こうした自己理解が深まるプロセス（自己理解①/自己決定/自己理解②）を繰り返すことで，自律的に社会情動的スキルを身に付け，道徳性・倫理性を高めていく児童生徒の育成へとつながっていくものとする。



道徳科における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

①問題との出会いの工夫 ～ I（主として導入時）【自己理解①】

②対話を活性化させる「発問」「問い返し」～ II（主として展開時）【自己決定→自己理解②】

①問題との出会いの工夫 ～ I（主として導入時）【自己理解①】

- ・ 主題に対する児童の興味や関心を高め，問題意識をもたせる導入の工夫

例)「ずれ」が生まれる教材提示，「空所」の提示，テーマの提示，追求すべき「価値」そのものを問う 等

②対話を活性化させる「発問」「問い返し」～ II（主として展開時）【自己決定→自己理解②】

- ・ 児童生徒の思考の流れを想定し，真に解決すべき問題へと焦点化する発問・問い返し
- ・ 立場・立ち位置の転換を促す発問・問い返し
- ・ 選択・判断を促す発問・問い返し

